

お気をつけ下さい！！ 初動負荷トレーニングマシン®に外観を似せた物を使用したらバランスや身体を壊した！当然とも思える投書、問合せが殺到…。被害を避けて頂くために「私・小山とマシン」の歴史を記載致します。

- ◆ '94年「ほぐしメニュー」も記載して初動負荷理論発表。発表10年を機に'04年「奇跡のトレーニング（講談社）」発刊。中学生の私がピッチング中に襲われた腰の大激痛、医師の「生涯スポーツ禁止」宣告などを記述。良くなりたい！の思いの閃きは、昨年開発に成功し腰痛や麻痺改善、機能発達に有効な新・レッグプレスマシン等に発展します。「必要は発明の母」の体験時間の長さ(^)。故障後の方が100mを11秒を切って走れ、140キロ超の投球、様々な球技、武道の力を得るのは興味深いことです。

'81年ワールドウィング設立。「動作追求の視点」を科学とし「動作視点」と命名。

動作、故障、麻痺改善研究へと進む中、使うと更に目的を外れ悪化を招く器具との出会い。「最先端」なる当時の器具を使った途端、私の首から下腿にかけて筋断裂、筋膜炎発生、発熱！胸骨2本に圧迫骨折判明。動作、神経筋制御を崩すマシンが原因…。

- ◆ 自分が作らねば初動負荷理論の具現化は無い…。工学・神経学見地から設計図を描く私。しかし、従来無かった発案に当時の我国で外枠（柱などの部品）も作れず、北米・アジアなどの器具会社に相談。渡米する中、「有名な貴方を我社の日本総代理店に！」招かれたホテルのスイートルームで本末転倒の依頼。典型的な「終動負荷」器具なので丁重に辞退。「何故？売れば儲かるのに！」後年もよく頂く言葉の先行使用者(笑)。

応答は韓国の会社。ただ、「貴殿の理論は理解不能、外枠だけの製作はイメージも湧かない、少しだけでも形を作らねば」の回答。もちろん動く物ではありません。中心部（動き、バランス装置）は日本で製作。出来た中心部と送られてきた物が合わない、送られた部品の大部分を廃棄。輸入コストが莫大な上に想像を超える中心部作りの費用。日本で中心部を作り、輸入部分は部品ですので完成品は国産品ですが、「動作、故障、麻痺改善研究の熱意は分かる、でも幾らお金を使えば気が済むの？」と周囲の弁(^)。

- ◆ 国内のいくつかの会社が外見を似せた物を作り「初動負荷マシン」と偽って販売する事態も発生。『ワールドウィング製の物と全く動きが違う、バランスや動きが悪くなり故障した』とのクレーム殺到！「本物の初動負荷トレーニングマシン®」で体調を改善された弁護士団、知財教授達が立ち上がって闘い、決着をつけるという歴史も。

簡単には作れない…。何故だかお分かりですよ。『闇とされていた神経筋制御、神経学のブラックボックスを開いたのが初動負荷理論、初動負荷トレーニングマシン®』と国際的評価も受ける中、理論の中核部の公表はまだ極一部。

効果の科学的検証が続々と続く中、私は科学、医学系論文として世界、後世に伝える役割と責任を担えと言われます。「浅ましきものは人間かな」。核心も知らず今度は韓国や海外が真似て動きも全く異質で、神経筋制御、脳神経系にストレスを招く物を作っては

売る人、買う人、それでお金儲けをしようとする人...残るのは虚しさだけなのに。

◆ **研究の果てに出来た「心臓部」**

様々な特徴、症状、難病の方々、医師との出会いも増えます。進化するマシンにも十分に満足できない私。高次技術指導員育成と平行し、機能追求の日々。「中心部ではなく、心臓部を作製し3次元動作誘発による神経筋制御」を求めた発想は「初動負荷カム® (BML Cam®)」として'03年結実。(国際特許出願中。国際予備審査では「新型性、進歩性が認められる、特許可能性が各国において十分である」との評価)。「BML Cam®」搭載には、長年苦しんだ外枠も日本で調整製作。歴史とは面白いですね!「カム」の誕生にも莫大な費用。「永久に元は取り返せませんね」と言われて喜ぶ?私(^\_^)

「神経筋制御」 この意味の分かりやすい一例は、酷い肩、首の凝りが頭痛・偏頭痛、また、それが酷くなると十二指腸などに穴があきますね。内臓も筋肉で出来ています。これらも神経筋(神経と筋肉)の制御(コントロール)の連関の大きな範囲です。血管も筋肉組織で神経の指令を受けています。